

会議録【要点筆記】

会議名称	令和8年度第1回米沢市地域公共交通活性化協議会	
開催日時	令和8年5月20日（水） 午前9時から午前11時00分	
開催場所	米沢市役所 3階 庁議室	
出席者	(委員等氏名) (所属団体等) 副会長 安部 徹 米沢商工会議所 専務理事 委員 今村 元一 米沢地区ハイヤー協議会 会長 委員 入間川 悟 東日本旅客鉄道株式会社米沢駅 駅長 委員 倉持 琳央 山形県立米沢栄養大学大学院 学生 委員 黒須 敬子 公募委員（継続） 委員 佐藤 耕一 米沢市コミュニティセンター館長会 会長 委員 鈴木 新一 米沢市地区委員会 副委員長 委員 鈴木 仁 東北運輸局山形運輸支局 首席運輸企画専門官 委員 鈴木 正幸 山交バス株式会社米沢営業所 所長 委員 高澤 由美 山形大学 准教授 委員 高橋 基之 山形県置賜総合支庁 総務課連携支援室 室長 (代理出席 白田 恭子) 委員 中西 希実 山形大学 学生 委員 林 武幸 米沢警察署 交通課長 委員 山口 高宏 山形県置賜総合支庁 道路計画課長 (代理出席 今 武典) 委員 山田 記子 米沢市身体障がい者福祉協会 婦人部 委員 吉澤 彰浩 米沢観光コンベンション協会 副会長 会長 吉田 晋平 米沢市 副市長 委員 吉田 武史 米沢市内高等学校校長会 会長 (米沢鶴城高校 校長) 委員 吉田 治彦 公募委員（新規） 委員 渡部 絵理 山形県公立大学法人 総務企画課長	
欠席者	(委員等氏名) (所属団体等) 委員 黒田 晋 米沢市小中学校長会 (米沢市立窪田小学校 校長) 委員 田村 昭 山形河川国道事務所 米沢国道維持出張所長	
事務局出席者	企画調整部長、地域振興課長、地域振興課長補佐、地域振興課主任（地域交通担当）	
会議次第	1 開会 2 会長あいさつ 3 委員紹介 4 会議の公開について 5 議事 (1) 副会長及び監事の選任について (2) 令和7年度事業報告並びに収支決算について (3) 令和8年度事業計画（案）並びに収支予算(案)について (4) 地域公共交通計画改定に向けた取組について (3) 報告 まちなか定額タクシー運行実績について 6 その他 7 閉会	

会議資料	議事次第・委員名簿 資料 1 会議の公開等について 資料 2 役員の選任について 資料 3 令和 7 年度米沢市地域公共交通活性化協議会事業報告 資料 4 令和 7 年度米沢市地域公共交通活性化協議会収支決算 資料 5 令和 8 年度米沢市地域公共交通活性化協議会事業計画（案） 資料 6 令和 8 年度米沢市地域公共交通活性化協議会収支予算（案） 資料 7 地域公共交通計画の改定に向けた取組について 資料 8 米沢市地域公共交通計画実績評価資料 資料 9 まちなか定額タクシー運行実績 資料 10 規約
会議内容	
【 1 省略】 【 2 省略】 【 3 省略】 【 4 省略】 【 5 議事】 (1) 副会長及び監事の選任について米沢市地域公共交通活性化協議会規約第 6 条第 3 項の規定により、副会長及び監事を委員が互選。副会長に安部徹委員、監事に黒田晋委員、渡部絵理委員が選任された。 (2) 令和 7 年度事業報告並びに収支決算について（事務局が資料 3、4 により説明）委員からの意見質問なし。 (3) 令和 8 年度事業計画（案）並びに収支予算(案)について（事務局が資料 5、6 により説明） 委 員：現在の計画は市民が主体となっているが、県外からの観光客やインバウンドが利用することを想定した視点が不足しているのではないかと。新幹線の最終便などで到着した際、夜間のタクシーが不足しているといった現実的な課題を把握するためのリサーチや研究の場が必要である。他地域の事例（銀山温泉や山形蔵王など）では、オーバーツーリズム対策として「日本版ライドシェア」の試験的導入など柔軟な対応が行われているため、こうした事例の研究も検討してほしい。 事 務 局：現在は課題が上がった際に随時対応しているが、令和 9 年度からの次期計画策定にあたっては、アンケートや聞き取り、バスへの直接乗車調査などを通じて詳細なリサーチと分析を行う予定である。夜間タクシー不足については以前からの課題と認識しており、啓発ポスターの作成などを行ってきたが、次期計画策定の中でも調査を進めたい。 委 員：事業計画にある「米坂線復旧に向けた検討」について、具体的な現在の状況はどうなっているのか。早期の復旧を望んでいる。 事 務 局：JR、県、周辺自治体による「復旧検討会議」がこれまで 7 回開催されてきた。復旧・運営の形態として「上下分離方式」「3 セク運営」「バス転換」の 3 パターンが示されているが、現時点で方向性は定まっていない。直近の会議では、鉄道復旧の要望は維持しつつも、まずは動くこととして、現在の代行バスよりも利便性を高めた「バスの実証運行」について検討していく流れになっている。 委 員：現行の計画はコロナ禍に策定されたため、観光需要の議論が十分でなかった	

可能性がある。現在の需要急増を踏まえた視点を入れてほしい。

「みんなで乗りましょう」という啓発だけでは公共交通の維持は困難な状況にある。既存の公共交通だけでなく、あらゆる移動手段を総動員して確保していく動きが必要である。

次期の計画について、将来を見据えて多様な意見を盛り込んでほしい。

事務局：非常に重要な視点であり、今後の計画策定段階において様々に検討していきたい。

(4) 地域公共交通計画改定に向けた取組について（事務局が資料 7、8 により説明）

委員：利用者を「市民」と「県外客（観光・ビジネス）」に分けて分析すべきである。

沖縄県の事例のように、市民は「県民割引」で安く利用でき、観光客には正規料金を負担してもらうことで、観光客が市民の足を支えるという「ハイブリッド型」の仕組みを検討してはどうか。

IC カードは設備投資が非常に高額であるため、世界的な主流である QR コード決済や、将来的な AI 顔認証など、安価で導入可能な最新技術の研究を並行して進めるべきである。

事務局：現行計画はコロナ禍に策定されたため市民の生活の足に重点を置いていたが、次期計画では観光・ビジネス客の視点も当然配慮していく必要があると考える。

観光客やビジネス客がタクシーを即時利用しやすくするデジタル化については、「DX チャレンジプロジェクト」を通じて民間から QR コード等でタクシーを安価に呼べる仕組みの提案などを募集している。

委員：バス無料の日で観光客も無料でバスを利用できていたが、限られた財源の中での運行となるので、市民向けの割引（市民割）を導入があっても良いのではないか。

調査業務については、業務委託で行うのか。

事務局：予算の関係上、外部委託を最小限にし、職員が自らバスに乗車してアンケートを行うなど、「自前」での調査・分析を主軸として進める方針である。一部調査については、アドバイザーへの受託研究という形で分析を行う予定。

委員：次期計画のための調査について、満足度を聞くだけでなく、計画に反映できる具体的な内容を精査して実施してほしい。また、観光客に関する動向についても、すでにあるデータと合わせて分析することを期待したい。

公的資金の投入額が増加しているが、一定程度の利便性を確保していくには、仕方ないこともあるのではないかと。単なるコストで見るのではなく、移動手段があることで「健康増進（通院）」や「免許返納の促進」にどう繋がっているのかといった、ウェルビーイング（幸せ）の視点での効果を可視化すべきである。

資料は直前でも構わないので事前に頂けるとありがたい。

委員：調査事業の関係者ヒアリングについて、高校生のニーズについて、教員への聞き取りだけでなく、Google フォーム等を活用して生徒自身の「放課後の活動（塾や娯楽）」に関する意見を直接吸い上げる方法も検討して欲しい。

万世地区等に住む海外からの労働者が、冬期間でも自転車移動している姿を見るので、公共交通のニーズがあるのではないかと。関係者ヒアリングの対象に含めても良いのではないかと。

事務局：高校生へのアンケートは Google フォームの活用を検討する。実施する際は是非学校側の協力をお願いしたい。

外国人労働者の状況については国際交流担当部署（魅力推進課）とも情報を共有しているが、公共交通だけでは対応が難しいことも多く、可能な範囲で対応をしていきたいと考えている。

委員：公共交通が維持されない不安が免許返納を妨げている側面がある。また、免許返納後すぐに公共交通を利用できるかという点、そうではなく、移動しなくなるというデータもある。公共交通への公的資金導入や、免許返納を見据えたバスの乗り方教室の実施など一体的に考え、持続可能性を高められる計画にすべき。

委員：置賜総合病院への通院（透析や放射線治療など）において、既存の交通手段では不十分で家族の負担が大きい。深刻なニーズとして光を当ててほしい。

事務局：置賜総合病院への移動は広域的な課題であり、県の公共交通計画でも置賜地域の課題として取り上げられている。本市としても次期計画のテーマの一つと考えているので、県を中心に検討を進めていきたい。

(5) 報告 まちなか定額タクシー運行実績について（事務局が資料9により説明）

委員：運賃（500円）は「1台あたり」なのか「1人あたり」なのか。もし4人で乗った場合、1人あたり120円程度になるのか。

事務局：登録者が運賃を支払い、同乗者は無料としている。

委員：1人あたりの運賃を（例えば300円等に）下げて乗り合い促進すれば、より利用者も増え、効率的な運行ができるのではないか。

事務局：現在はタクシー車両の状況から1つの予約に1つの運行で対応しているが、冬期間などの車両不足も踏まえ、事業者の状況を見ながら積極的な乗り合い利用を検討していく必要があると考えている。

【6 その他】

委員からの意見質問なし

【7 閉会】